

実験実習機器センター スライド・ポスター印刷のポイント

1999年6月25日

長らく、Macintoshでスライドやポスターの原稿を作るソフトウェアといえばAldus Persuasionが標準でした。しかしながらAldus社がなくなり、今後はサポートやバージョンアップの予定がないことから、今後スライドやポスターの原稿を作る際にMicrosoft社のPowerPointを利用するユーザが増えることが予想されます。今回はそれぞれのソフトの特徴を踏まえながら、印刷で失敗してコストと時間を無駄にしないための注意点をいくつかまとめてみました。

1. スライド・ポスターを作り始める前に

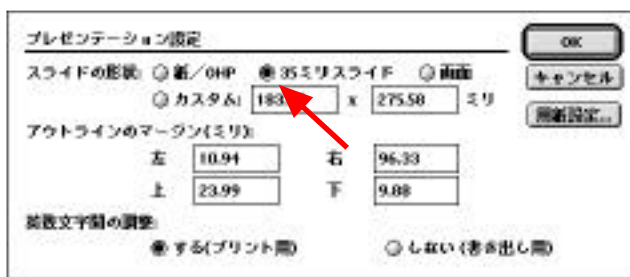
どちらのソフトも、起動して新規ファイルを選べばすぐにでも中身を書きはじめられそうな気配を漂わせていますが、騙されてはいけません。PersuasionはA4の紙に「近い」サイズを、PowerPointはある特定のモニターで表示するサイズを、それぞれ標準だと思いきり用紙設定してくれず、35mmスライド、紙、モニターは全て縦と横の比率が違うので、自分の目的に合わせて設定しておかないと、バランスの悪い作品に仕上がってしまう羽目に陥ります。

というわけで、「ファイル」メニューから「ページ設定...」(Persuasionの場合)または「用紙設定...」(Powerpointの場合)を選んでサイズを変更してください。

Persuasionなら、事前にセレクトで最終目的のプリンタとメディアを選んでおけば、印刷可能範囲を考慮したドンピシャの設定をしてくれます。一方Powerpointの場合は、あくまで全体のレイアウトを考えると必要な縦横比を決めているだけだと思っておいてください。サイズはあてになりません。

35mmスライドを作る場合は、ProPalette 7000の用紙設定が右のようになっていることを確認してください。ページサイズはほぼA4相当の状態です。

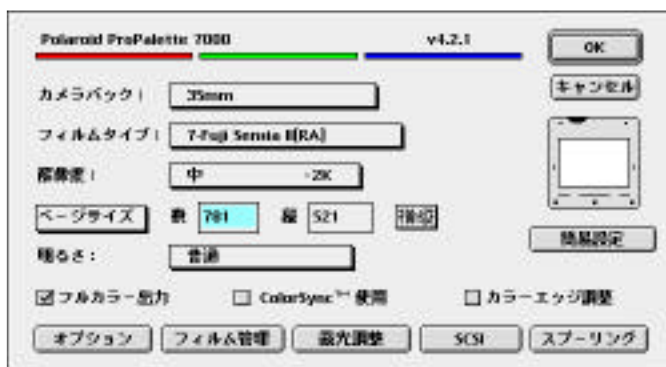
35mmスライドといえば、Persuasionは縦長と横長のスライドを混在して作成できますが、ProPalette 7000はすべて用紙設定の画面で指定した方向を押し通すので、正しく出力できません。縦長と横長を別のファイルにするか、ファイルの前半後半に分けておいて別々に出力するなどの対処が必要になります。



Persuasionの場合



Powerpointの場合



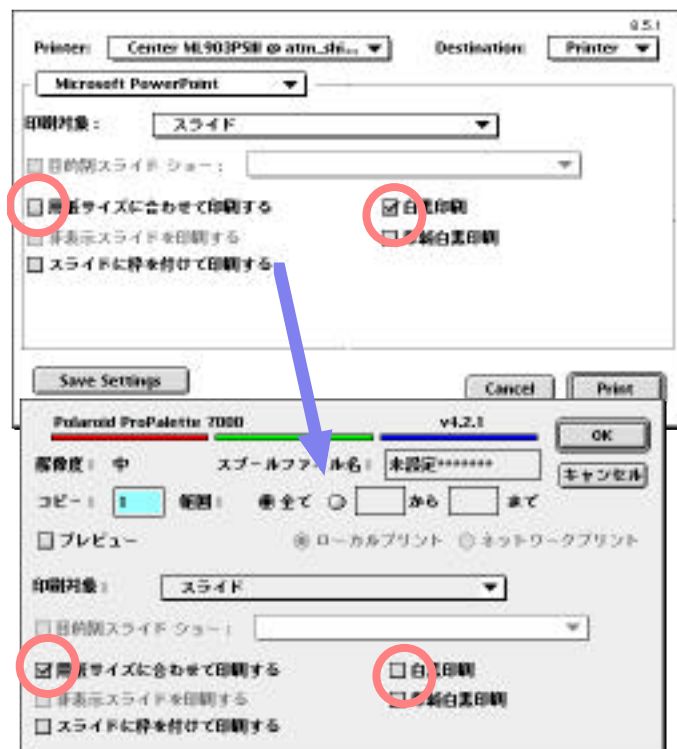
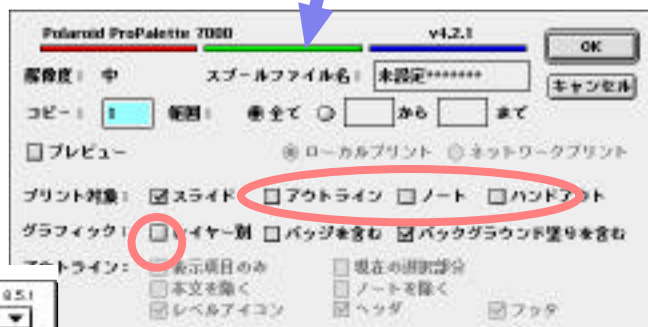
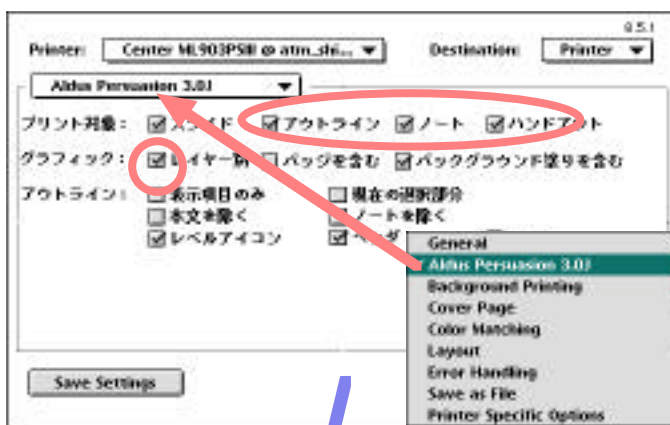
11. いよいよ印刷

スライド・ポスターの中身はそれぞれ自分のセンスで作っていただくとして、一つだけ昔大流行したドジを紹介しておきます。Persuasionなのですが、スライドがなくてマスターばかりが何枚もあるファイルが「印刷ができない」といって持ち込まれたことがあります。Persuasionはバックグラウンド・マスター・スライドの3層構造で、そのうちバックグラウンドとマスターはスライド作成を効率良く行うためのテンプレートですから、どんなに熱心にマスターを作っても、肝心のスライドを作らなければ何も無いのと同じですね。自分の目の前に表示されているのがバックグラウンドやマスターなのか、スライドなのか、よくよく確認して作業してください。まあ、最近はあまりそういう失敗作は見なくなりましたけど。

さてそれではいよいよ印刷ですが、やっぱりこの時もソフトによっていろいろと癖がありますので、注意点をいくつか紹介します。

まずPersuasionですが、印刷メニューを選んだときは右のように印刷対象はすべて、グラフィックはレイヤー別・バックグラウンドありになっています。これでは余計なものが山盛りに出てきますので、赤で囲んだ四つのスイッチは切ってしまいましょう。ちなみにPSプリンタへの出力の場合、このアプリケーション別オプションな表示はメニューを切り替えないと見えませんので注意してください。

次にPowerPointの場合ですが、こちらは「白黒印刷」をOFFにし、「用紙サイズに合わせて印刷」を必ずONに変更して



ください。このソフトは不思議なことに用紙設定で指定したサイズに実際の紙のサイズやプリンタごとに異なる印刷可能範囲が反映されないため、「用紙サイズ...」がOFFだと平気でデタラメな出力をします。

以上の点を注意すれば、それなりの出力品質は確保できます。あとはすべて素材データの準備の仕方の問題になります。画像データの解像度、フォントの選び方などのコツについては、別マニュアルを参照してください。